

東尋坊 視察報告書

(福井県坂井市)

1 現場付近の状況

- ・飛び込み場所は、越前加賀海岸国定公園内にあり、日本海に海拔 25メートルの断崖が突き出ており、自殺者の大半は柵などの障壁施設のない約 100メートルの一望できる範囲内の3箇所です。年間 20～30人が岩場から飛び込んでいます。
- ・周囲は約 1.4キロメートルの遊歩路が松林で囲まれており、所々に約 1.5メートルの低い柵が数ヶ所設置されているものの、低いので簡単にまたいで岸壁まで行け、全体的に何処からでも飛込める環境となっている。
- ・年間約 100万人の観光客で賑わう観光地であるが、保安員の配置が無く、約 37軒ある土産屋の殆どが土産店であるため、午後 5時ころになるとシャッター街となり、ゴースタウン化する。
- ・公衆ボックスが 2機設置されており、そこには無銭者のためにコインやテレホンカードが心ある人によって置かれています。
- ・日没時になると不気味な環境になるが、水銀灯が 8基設置されているものの、それも危険場所を照らしているため、夜間でも岩場に近づく事ができる。
- ・最終バスは午後 8時ころである。

2 自殺防止対策

- ・危険場所に水銀灯が設置されているだけで、何の対策も講じられていない。
- ・公衆ボックスが 2基設置されており、そこには「悩み事相談所」として地元警察署の電話番号が書かれたポスターが貼られている。
- ・近くの寺が設置した「親から貰ったその命・・・」等と書かれている標柱が危険ヶ所に 4本設置されている。
- ・最近になり、毎週月・水・金の3回、地元民によるパトロールが行われるようになったほか、地元警察官による常時巡回が始まった。
- ・地元NPOが、水際に相談所を設けて、会員 77人でパトロールなどを行っているのが主力であり、年間 40～50人の自殺企図者を発見・保護している。

3 考察

・年間約 200人の自殺企図者があの狭い箇所から全国から集まって来ているところから、昼間の保安員配置と、公的機関による相談所の設置、また夜間監視装置の設置などによる夜間対策が喫緊の課題と思われた。